

岩崎えり奈 (日本学術振興会)

「家族計画の中の女性——チュニジアの事例」

鷹木恵子 (桜美林大学)

「チュニジア農村部の女性の内職化と性別規範——ジェリド地方のナツメヤシ・オアシスの事例を中心に」

村上 薫 (アジア経済研究所)

「トルコにおける女性労働と社会政策——自由主義経済下の『柔軟な労働』をめぐる議論を中心に」

残念ながら、筆者は第3部会 として「イスラームと出生政策」と題された報告を同じ時間帯中に行っていたため、このパネルディスカッションを傍聴できなかった。(小島 宏記)

## アルゼンティン人口プロジェクト出張報告

国際協力事業団 (JICA) は、アルゼンティンの経済省国家人口統計院 (INDEC) をカウンターパートとし、同国における次の人口センサスの支援を目的する人口統計プロジェクトを実施してきた。今年度はその最終年として、人口統計データの有効活用のための教育に重点を置いている。

このような背景のもとに、プロジェクトでは数回の「人口統計特別セミナー」を実施してきたが、第4回セミナーの講師として本研究所の鈴木透 (国際関係部第三室長) が招聘された。セミナーはブエノスアイレス市 (2000年3月28日)、コルドバ市 (3月30日)、ウスアイア市 (4月4日) の3ヶ所で開催され、政府・州の統計担当職員を対象に、実際にアルゼンティンのデータを用いた分析例を示しながら、人口分析の方法論について講義した。(鈴木 透記)

## 台湾人口学会2000年大会

2000年4月21日 (金) ~22日 (土) に台湾・台北市の国立台湾大学で台湾人口学会大会 (会長: 謝雨生・国立台湾大学教授) が「二十一世紀的人口・家庭與遷徙の問題」というテーマの下で開催された。台湾人口学会は大会初日の総会まで「中華民国人口学会」と公式に自称していたが、総会で改称が了承された。総会では筆者が日本人口学会の国際交流担当理事として韓国人口学会を含む東アジア3カ国の人口学会間の相互交流覚書を持参したが、謝会長が3カ国人口学会会長による署名を完了した上でその場で台湾人口学会会員に披露した。また、同覚書を先取りした形で筆者は同大会で報告の機会を与えられた。同様に、同覚書をやや先取りした形で、別記の日本人口学会大会の英語セッションの準備も行われた。

初日の総会終了後、午前中には出生関連の第1セッション、午後には死亡関連の第2セッションと家族・民族関連の第3セッションが開催され、それぞれ3~4本の報告が行われた。2日目の午前には高齢化関連の第4セッションと移民関連の第5セッション、午後には移動関連の第6セッションと華僑・印僑関連の第7セッションが開催され、それぞれ2~4本の報告が行われた。報告題目は英語のものもあり、英語論文も配布されていたが、口頭報告自体は中国語でなされた。しかし、第6セッションで筆者が "Sustainable Urbanization and Religion in Southeast Asia" と題された報告をし、天主教輔仁大学の關秉寅教授が討論者を務めて下さった際は質疑応答も含めて英語で行われた。参加者はほぼ全員が台湾出身者だと思われるが、欧米で教育を受けた方が多く、外国で教えている方も少なからずい